

赤瀬川原平

槍 鉋 を 発 注 し た 話

人間誰しも綺麗な家に住みたい。でも綺麗すぎる家は、神経が疲れる。適度に材質感の出た粗い感じのあったほうが、住む人間としては気が安まる。そう思って建てたわが家は、床も壁も2cm厚のベイマツ板張りである。床はさすがに鉋かんをかけたが、壁は適当にグラインダーをかけただけの粗板張りだ。その適当さかげんが、住む人間の平常心を包んでくれる。

そんな家だから、それまでのいわゆる既製の家具がどうも合わなくなった。椅子式の食卓セットは、洋風のくびれた曲線のもので、焦げ茶色のニスでつるつるしている。処分しようかと思ったが、もったいない。ふと思いついて鉋なで削りはじめた。

それまでも自宅の飾り柱は自分の鉋で削っていたので、ついやりたくなったのだ。ところがこれが案外難しい。倒木の表面を削って飾り柱とするのは、これは原木の素材からだからやりやすい。でもこの場合はすでに家具としてでき上がっているから、もう十分に細い。そこにさらに鉋の刃を入れていくのだから、削りすぎると折れる。だから太い所は大胆に、細い所はノミなど使っていていいいに、という具合。

それでもやりにくい個所が出てくる。椅子も机もすでに組み合わさってきているものを削るのだから、刃物の届かない個所がある。届いても、力を入れようがない。もっと長い刃物、あるいは柄の曲がった刃物はないのか。

そうしたら大工好きの友人が、槍鉋やりかんの存在を教えてくれた。日本の古代の鉋で、槍みたい長くて、刃先が反っていて、長い柄を両





表紙©藤幡正樹「ドロップ」  
平版[オフセット4色刷り] 456×399mm 1990年

## C o n t e n t s

### 2 技術に会う 2

槍鉋を発注した話 赤瀬川原平

### 4 HITACHI FILE talk+

1 [talk] 高分解能衛星画像に付加価値情報をプラスして、  
新しいサービスを提供する  
上田浩史

[+] 衛星が撮影した三宅島

2 [talk] 高温はんだの「宝」を発掘、  
世界が待ち望むはんだ完全無鉛化へ  
岡本正英

[+] はんだ融点チャート

3 [talk] 誰でもどこでも飛ばせる、鳥の目をもつ自律飛行体  
古川徹

[+] 小型自律飛行体

### 10 特集 都市の新しいつくり方——リノベーション&パートナーシップ

10 船場発・リノベーションライフ 橋爪紳也

15 都市再生のシナリオ——イギリスの事例に学ぶ

19 都市を読み解く想像力 鈴木博之

20 [座談会] パートナーシップのまちづくり

——サステナビリティ実現のために

23 PFIを通して地域活性化へ——日立のPFI事業

25 都市再生キーワード辞典

### 26 technobscure 2 杉浦隆「ツインタワー」

### 28 永瀬唯のサイエンス・パースペクティブ 2

サーバという技術——コンピューターシステムの基幹

### 32 HITACHI Information

### 34 日立総研 CLICK ON! research report 2

リタイアメント・コミュニティと地域再生

あかせがわ・げんべい……1937年神奈川県生まれ。'60年代前半のネオ・ダダ、ハイレッド・センターなどの前衛美術運動を皮切りに、路上観察学会、トマソン観測センター、ライカ同盟などさまざまな活動を行う。尾辻克彦の筆名で小説家としても活躍。近著『運命の遺伝子UNA』（新潮社）、『赤瀬川原平の名画読本』（光文社）、『優柔不断術』（筑摩書房）。

手で持ってぐいぐいと削る。それだ、と思った。

昔の絵巻物などよく見ると、その大工の場面が描かれていたりする。その友人によると、ある刃物専門店に、実用ではない古典としてその槍鉋が飾ってあって、何十万円かの値段がついていたという。

そんな高級品は買えない。うーん残念、と思っていたら、新潟で畑をやっている友人が、近所の漬れそうな鍛冶屋に言えば何でもつくってくれるよ、と言う。一つ1万円くらいだろうという。早速飛びついた。

何カ月かして送られてきた。鍛造しただけなので、刃は自分で研いでつけるという。この大雑把さがいい。研いでいくと鋼が出て光ってくるけど、その鋼がところどころ途切れている。そうとう大雑把だ。でもいまだき槍鉋を発注でつくったものはいないだろうと、満足だった。

葛飾北斎 富嶽三十六景 尾州不二見原  
アダチ伝統木版画技術保存財団

